〔書言字考節用集五肢體〕目メ一名同銀海眼

〔和漢三才圖會十二支體〕目音木

釋名云、目默也、默而內識也、

內經云、目者肝之竅、而肝和則能辨五色矣、

天不足西北、地不滿東南、故人右耳目不如左明、人左手足不如右强也、人南面則左東方陽也、其精拜於上、

〔身のかたみ〕第三、御めは、ゑやうとく生れづきたるものにて候ほどに、おほきくもちいさくも、まなこはとにもあれ、見まはしうつくしう、のどやかに見なし候へば、をのづからうつくしきものにて候、いかによき目つきにても候へ、まん〳〵と見まはして、ふと見つけたるやうに候へば、能めつきも、をのづからみにくゝ候、よきにつけてもな○此間有脫字にうつくしう御らんじなされ候はば、よく御入候べく候、

〔めのとのさうし〕目は人の顏のうちのいきものにて、おほきなるもちいさきも、いきほいことなるものにて、さのみ思ふまゝに見いだし候へば、よき目つきも、おそろしくなり候、わろき目つきなれども、なづかしううら〳〵と見出し候へばよく候、

〔古事記中景行〕天皇聞看定三野國造之祖、神大根王之女、名兄比賣弟比賣二孃子、其容姿麗美而、遣其御子大碓命以喚上、○中略求他女人、詐名其孃女而貢上、於是天皇知其他女、恒令經長眼、亦勿婚而惚也、

〔古事記傳二十六〕令經長眼眼字、諸本肥に誤れり、眞福寺本服に誤れり、今は延佳本に依れり、は、字の隨に那賀米袁閉斯米と訓べし閉斯米をヘセシメ、ヘサシメなど訓は、正しからず、此は萬葉十七に、見之米、甘に依志米などあると、同格の言なり、令見令得などもミセシメ、ミサシメ、エセシメ、エサシメなど云は後ぞ、長眼とは、心を著て久しく視居るを云ふ、そも〳〵長目と云言の本は、まづ目は所見のミエの約まれるにて、萬葉などに、妹か目見ず、君が目を欲などと云も、